平成２５年度研究成果報告書　《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３１	都道府県・指定都市名	鳥取県・鳥取市
ふりがな **学校名** （生徒数）	とっとりしりつふくべ 鳥取市立福部中学校（８１人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：鳥取県鳥取市福部町高江４８５番地３
電話番号：０８５７－７５－２３３４
メールアドレス：fukube-j@mailk.torikyo.ed.jp
学校のホームページのＵＲＬ：http://www.torikyo.ed.jp/fukube-j/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：総合的な学習の時間
○研究のキーワード：思考力，思考ツール，探究，地域，教科
○研究成果のポイント
・探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ表現）において思考力の育成に向けて，整理・分析過程を実現する思考ツールの開発及び活用を図ること。
・「総合的な学習の時間」の探究活動の質を高め，思考力を育成するとともに，教科学習と「総合的な学習の時間」の相互作用を図りながら，各教科で求められる思考力も深めていくこと。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

思考力（深く）・判断力（正しく）・表現力（美しく）を高めていく生徒の育成 ～「総合的な学習の時間」の探究的な学習を通して～

（２）研究主題設定の理由

生徒が授業の中で「考える」ことを重視していきたいと考え，身近な問題である郷土に関わる題材を取り上げ，「総合的な学習の時間」の探究的な学習に着目することにした。郷土に愛着をもち，自ら課題を探究することを通して郷土を発信・伝達する学習が，思考力・判断力・表現力を高めるために有効であると考えた。また「総合的な学習の時間」と各教科との相乗効果を期待し，確かな学力の定着と向上につなげていくことも目指している。以上の理由により，昨年度の研究の課題改善も踏まえて，研究主題を設定した。

（３）研究体制

研究推進委員会 （校長・教頭・教務主任・研究主任・学年主任）	研究 推進部	生活・安全部 知育・徳育部

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	5月	授業研究会（２学年「総合的な学習の時間」，集団の思考）
	8月	職員研修会（保健教育との融合を含めた「総合的な学習の時間」の単元構成，教科での思考力育成の取組）
	10月	授業研究会（１学年「総合的な学習の時間」，集団の思考）
	10月	授業研究会（２学年「総合的な学習の時間」，集団の思考）
	12月	鳥取市学校保健研究大会（１～３学年「総合的な学習の時間」，集団の思考）

（５）具体的な研究内容・方法・研究を進める上での工夫点等

○思考力の育成を研究の柱に

学習方法に関する評価の観点の中に「思考力」という言葉を独立させて定義した。「総合的な学習の時間」の探究活動の質を高めるために最も必要な力であり，各教科における確かな学力の定着と向上を目指すためにも「総合的な学習の時間」の「思考力」がその土台になるものと考えるからである。

○思考力の分析（ベーシックな思考から高次な思考へ）

思考力は階層的にとらえて，深めていくことが理想とされる。昨年度はベーシックな思考を中心に思考の類型化を図った。本年度は班・個人で思考した考えをクラス集団で練り上げ再構成して深めていくことを高次な思考としてとらえ，思考の段階を上げていくことに取り組んだ。

○授業のねらいにより適した思考ツールの開発・活用

集団での思考の育成も考慮していくために，生徒の実態に応じて議論しやすい新たな思考ツールの開発・活用を行った。また「思考力の段階表」を活用して，思考力についての評価をＡＢＣと想定した生徒の具体的な姿を通してできるように工夫した。

〇他領域（保健教育）と「総合的な学習の時間」との横断的・総合的な単元構成

「総合的な学習の時間」の単元に「らっきょう」と健康の関わりについて探究していく内容を取り入れ，自己の健康増進について思考する活動を作ることで，保健教育との横断的・総合的な単元構成を行った。

〇「総合的な学習の時間」と各教科の相互作用

各教科でも思考ツールの活用や言語活動の充実・工夫を行い，それぞれの教科で求められる思考力を育成することも目指した。具体的に文部科学省の言語力育成に関する整理用一覧表を活用した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果と課題　　◎成果　●課題

◎全教科全領域で，生徒が思考を深める場面の手段として思考ツールの活用を試みることで，思考を可視化・操作化することができ，互いに学び合う協同的な授業を行うことができた。その結果，生徒の学びの質を高めることができた。

◎本年度は班・個人から集団へと思考の段階を上げることで思考力を評価していったが，集団の思考の場面では思考ツールによって多くの生徒が他者の考えと比較検討しながら自分の考えの再構成を図ることができた。「思考力の段階表」を活用しての生徒の自己評価においても，生徒の思考が深まっていることを見出すことができた。

◎思考の段階を上げることで，単元の思考の産物である成果物（地域情報誌，福部の未来を伝えるＣＭなど）も昨年よりも内容が充実してきており，生徒の単元を通しての成長した姿を見ることができた。例えば，単元終了後に「どのような力が身に付いたのか」という観点で自己評価や振り返りができる生徒が増えている。

◎「総合的な学習の時間」で集団の議論を行う際の思考ツールとしてはピラミッドチャート，また本校が開発したピラミッドランキングが最も有効であった。焦点化，序列化に視点をあてて思考活動を行うと議論が活性化しやすく，クラスで一つの思考ツールを作っていく達成感を味わうことができた。

◎本校独自の「総合的な学習の時間」に関するアンケートおよび全国学力・学習状況調査の「総合的な学習の時間」の調査項目でも，極めて良好な結果を得られた。ほとんどの生徒が課題解決に向けて協同的に探究していく姿勢があり，「総合的な学習の時間」で学んだことを他教科や生活に応用していく姿勢が昨年度以上に定着している。

◎入学当初よりも学力が向上しており，全国学力・学習状況調査の知識の活用をみるＢ問題において国語，数学とも全国平均よりも５～６ポイント上回った。Ｂ問題の能力は「総合的な学習の時間」の探究学習の能力と共通している部分があり，学力向上と「総合的な学習の時間」との関連性を見出すことができる。

●集団での思考の場面を授業で仕組む場合，概ねすべての生徒がしっかり思考していたが，議論に参加できない生徒については指導と評価の一体化が難しいことがある。自己評価と振り返りの工夫やＴ・Ｔ教員の支援の工夫が必要である。

●「総合的な学習の時間」で育成された力を各教科，各領域に横断的につなげていく事例を増やしたい。そして，その育成された力がどのように各教科，各領域で生かされたのかを授業を通して検証していく視点を明確化する必要がある。

●小中連携の視点から，思考力と小学校の「総合的な学習の時間」で身に付ける力とのつながりをより吟味することで，中学校での「総合的な学習の時間」の質がさらに高められると考える。

（２）研究成果の意義等

思考活動は分析，比較，分類，関連付け，序列化などのように思考スキルを具体化し，そのための手立てを用意することが重要である。その分析に基づいた学習活動や思考ツールを各単元で準備し実践することが，思考力の育成に極めて有効だといえる。

（３）指定期間終了後の取組

「総合的な学習の時間」では研究での成果を生かしながら柔軟な授業づくり・単元づくりを行い，探究活動の質を高めていきたい。そして今後も「総合的な学習の時間」との関連を図ることで，全教科全領域での思考力の育成を目指していきたい。